

集成材製造で培った技術をCLT製造に活かす

株中東



石川県能美市の株中東本社工場

国内トップクラスの集成材メーカーであり、木材製品の製造・販売、建設工事の設計・施工なども手がける株中東（石川県能美市、小坂勇治社長）は、能美市内に2つの工場を展開し、全国に集成材やCLT（直交集成板）、プレカット材の供給を行っている。

同社は昭和43年に、前進となる株中東木材を設立し、資本金の増資を経て、昭和51年に株中東建設へ名称変更。その後も3度にわたる増資や新社屋の建設、地方営業所の開設を経て、平成7年に株中東に名称変更し、現在に至っている。

同社は建設業を営む一方で、40年ほど前から集成材の製造事業を開始。プレカットの黎明期である昭和60年代には木材のプレカットや建て方サービスなどの事業を業界に先駆けて展開してきた。現在では、日本国内だけでなく、台湾やシンガポール、中国、韓国などの諸外国にも製品を出荷しており、幅広く使用されている。

また、同社では近年の非住宅物件に対する需要の高まりから、平成28年の新工場建設の際には、CLT・集成材の双方に対応した高周波プレス機を導入し、CLTの製造が本格的にスタート。これまで集成材製造で培ってきたラミナの接着技術などがCLT製造に活かされている。他にも、石川県の県木である能登ヒバを使用した集成材・CLTの製造など、県産材・国産材の利用促進にも積極的に取り組んでいる。

CLT・集成材の製造から加工まで
一貫対応を可能とした大型工場

CLTの製造を行っているのは同社の本社工場で、CLT・構造用集成材製造棟（2,992㎡）、プレカット加工棟（2,992㎡）、構造用集成材製造棟（1,994㎡：現在整備中）、倉庫棟（1,011㎡）の4棟で構成。いずれも自社で製造・加工した大断面集成材やCLTパネ